

**ファナック株式会社**  
**2021 年度第 2 四半期 決算説明会(電話会議) 質疑応答要旨**  
**(2021 年 10 月 27 日開催)**

**Q. 上期実績が計画を下回りましたが、2Q は半導体不足でロボットと FA の販売が減速したからと  
 いうことでよろしいでしょうか？通期見通しの修正についても、考え方としては需要と供給の 2 つの  
 リスクがありますが、供給リスクが主な理由でしょうか？**

A. 需要については堅調に推移しており、3Q 以降もマーケットの状況は引き続き堅調と見えています。それ  
 に対して、供給については半導体をはじめとした電気・電子部品、機械部品、素材など、いろいろな  
 ものが今世界的に足りておらず、調達が非常にタイトで生産が増やせず、2Q は業績予想よりも減っ  
 てしまったというのが実態です。

**Q. 中国の需要動向についてはどのようにご覧になっているでしょうか？**

A. 2Q においては、中国向けに出荷する商品で使われている一部の部品の調達不足により大きく影響  
 を受けた側面がありますが、FA、ロボットの受注は非常に堅調に推移しています。

**Q. 部品不足による生産制約により納期が長期化することで、機会損失が起こっているのでは  
 しょうか？**

A. 納期については以前と比べて長くなっており、機械メーカー様にご迷惑をおかけしている状況です。  
 半導体を中心とした世界的な部品不足が根底にありますので、他社も供給は厳しいと推測していま  
 す。当社としては機械メーカー様とよくご相談し、何とかご迷惑を最小限にするよう努力しているところ  
 です。代替品を調達する、あるいは設計変更してでも、現行品の生産を継続することに会社の全力を  
 挙げています。

**Q. サプライチェーンマネジメントについて、部品不足による生産リスクを受け、変更を検討してい  
 ますか？**

A. サプライチェーンについては、リーマンショック以降の急回復、東日本大震災の時にも苦労しましたので、  
 在庫を持つなど取り組んでまいりました。実際に、専用品をはじめ半導体などの部品を多めに持つとい  
 うことを何年も前から行っており、今回生産が繋がっている面もあります。ただ、これだけの不足は過去  
 に経験がなく、更にリスクを負って長期的に確保しておくべきで、今後の改善につなげるべき事項だと  
 認識しています。

**Q. EV 化の加速により、設備投資に影響はありますか？**

A. 特に、ロボット化への意欲が非常に高まっていると捉えています。先回りしての能増を進めていましたが、  
 スピードがかなり上がることが考えられますので、現在、計画を再修正している最中でありま  
 す。ロボットの生産能力は従来の月産 11,000 台を 2 割増にするメドは立っていますが、遠くない将来に次の投  
 資も必要になるのではないかと考えています。CNC につきましても、壬生工場（栃木）の CNC、モ  
 ータ、アンプ工場での次の投資を含めて考えないと需要に追いつけないのではないかと意識を持ってい  
 ます。

多少の調整局面もありますが、2、3年前に比べると、ロボットもFAも、需要が高まっていくだろうという実感があり、供給体制を敷いて確固たるポジションを維持し、さらに発展させていきたいと考えています。

**Q. QSSR AUTO PATH はしっかりと儲かるロボットのビジネスモデルに貢献するのでしょうか？**

A. QSSR AUTO PATH は、ロボットの利便性、使いやすさを上げることで、ロボットの付加価値を高めま  
すので、利益に貢献すると考えています。QSSR AUTO PATH の機能は、当社が提供することによっ  
て、システムメーカー様にとっても手離れが良くなるメリットもありますし、エンドユーザー様にとっても早く設備  
が立ち上がるメリットがあります。

**Q. 先行発注のリスクはロボットでは高くないのでしょうか？**

A. 先々までプロジェクトが決まっている場合、間に合わせるために早めに発注するという動きはあると思  
います。ただ、基本的には設備計画とリンクした話ですので、実需とそれほど乖離していないと思ってい  
ます。

**Q. ロボドリルの IT 関係の一時的な需要の中身は過去と異なるのでしょうか？現在は需要が通常  
ベースに戻ったのでしょうか？**

A. 過去に大きかったスマートフォン関係も常にある程度ありますが、直近の山につきましては、以前からご  
説明していた通り、パソコンやタブレットが中心でした。その一時的需要が終わり、現在、受注が落ち  
着いているという状況です。今後の見通しにつきましては、また4Q ぐらいから IT 関係の需要が多少  
出てくるだろうと見込んでいますが、予想には確実であろう分のみ反映させています。

**Q. 下期の見通しについて、下期の売上が上期比2%増である一方で、営業利益率は上期の2  
7%から23%へ下がる予想になっている理由を教えてください。**

A. 利益率につきましては、世界的な資材の価格高騰や部品費の上昇、船便などの物流費の上昇とい  
ったコストアップを見込み、今回の計画としています。通常購入しているルートで調達できない場合、別  
のルートから高価格で買うケースもあります。ただ、生産が繋がらないとより大きなロスになりますので、  
高い調達費をかけてもお客様への供給責任を果たしていくよう努力しております。世界的な価格高  
騰への対応は今後の課題だと思っています。

**Q. 米州の自動車業界の設備投資について3カ月前と比べて変化はありますか？EV 製造や設備投  
資の動向、ロボットへの投資について教えてください。**

A. 米州でのロボットの受注は2Q は少し下がりましたが、高水準が続いています。自動車関連の投資に  
つきましてはEV が中心で、今後かなりのスピードで設備導入が必要だと思われます。米州に限らず、  
他の地域でも自動車メーカー様、バッテリーメーカー様などからEV 関連の製造ラインに当社のロボットを使  
いたいということで、かなりの台数のロボットの引き合いがあります。今後、EV はロボット化の重要な領域  
だと思っています。

以上

本資料に含まれている将来に関する見通しには、市場における製品の需給動向、競合状況、経済情勢その他に不透明  
な面があり、実際と異なる可能性があることをご承知おき願います。